

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会  
三神農業振興センター

「稲・大豆作情報（第1号）」について（送付）  
このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

## 稲・大豆作情報（第1号）

### 1. 情報田生育調査結果について

#### (1) 耕種概要

品種名	夢しずく (上峰町)	さがびより (みやき町)	ヒヨクモチ (神崎市)
移植日(月日)	6月11日 (平年:6/9)	6月18日 (平年:6/20)	6月23日 (平年:6/19)
栽植密度(株/m <sup>2</sup> )	15.6 (52.1株/坪)	16.8 (55.9株/坪)	18.7 (62.2株/坪)

#### (2) 調査結果（7月6日現在）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈(cm)	55.4	29.4	26.7
平年値(平年比)	43.5(127)	28.7(103)	26.0(103)
莖数(本/m <sup>2</sup> )	222	87	78
平年値(平年比)	260(86)	126(69)	176(44)
葉齢(L)	8.1	6.2	6.6
平年値(平年差)	8.0(+0.2)	6.6(-0.4)	7.1(-0.5)
葉色(SPAD値)	38.4	32.8	31.9
平年値(平年差)	—	—	42.0(-10.1)

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7か年の数値を7月6日に換算し、そのうち最高、最低を除いた5か年の平均値。

「ヒヨクモチ」はR1,2年データ欠損のため、平年値はH28~R4(R1,2除く)5か年の平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

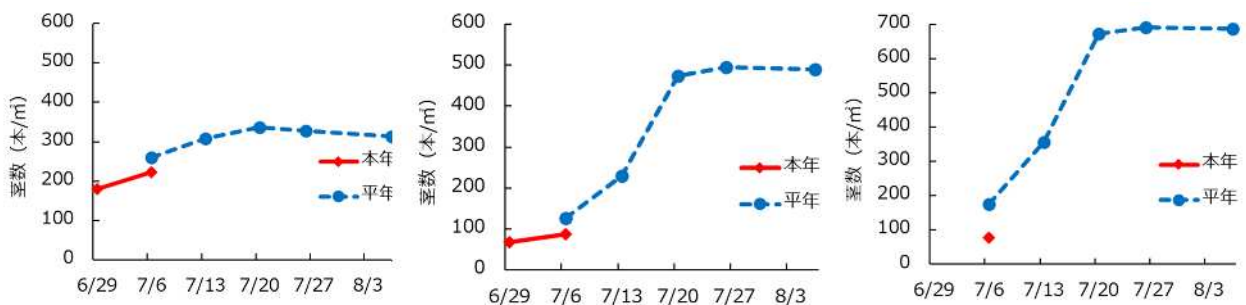


図 莖数の推移（左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ）

本年産水稻の生育状況(7月3日)

移植日	項目		草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉齢 L	概況 (平年との比較)
	品種	年次				
6月19日	夢しずく	本年	32.7	94	5.7	<b>【気象】</b> 6月1日～30日まで ◆平均気温…平年より0.8℃高い ◆日照時間…やや短い(平年比95%) ◆降水量…多い(平年比115%)
		平年	30.7	94	5.7	
		平年比(差)	107	100	(±0)	
6月20日	ヒノヒカリ	本年	26.1	102	5.2	<b>【生育】</b> ◆草丈 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」で高い。「ヒヨクモチ」で平年並み。 ◆茎数 「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」で少ない。「夢しずく」で平年並み。 ◆葉齢 「夢しずく」では平年並み、「ヒノヒカリ」で遅れており、「さがびより」でやや遅れており、「ヒヨクモチ」で進んでいる。
		平年	24.4	137	5.9	
		平年比(差)	107	74	(-0.7)	
6月20日	さがびより	本年	28.7	73	5.4	◆茎数 「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」で少ない。「夢しずく」で平年並み。 ◆葉齢 「夢しずく」では平年並み、「ヒノヒカリ」で遅れており、「さがびより」でやや遅れており、「ヒヨクモチ」で進んでいる。
		平年	25.3	92	5.7	
		平年比(差)	113	79	(-0.3)	
6月20日	ヒヨクモチ	本年	25.3	112	6.5	◆茎数 「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」で少ない。「夢しずく」で平年並み。 ◆葉齢 「夢しずく」では平年並み、「ヒノヒカリ」で遅れており、「さがびより」でやや遅れており、「ヒヨクモチ」で進んでいる。
		平年	25.6	126	5.8	
		平年比(差)	99	89	(+0.7)	
留意点	○ 除草剤の処理後、1週間の止水管理を行った後は、速やかに浅水管理に移行し、茎数確保と根の健全化に努める。 ○ 降雨により深水にならないよう、適正な水深を保つように努める。					

## 2. 気象及び普通期水稻の生育概況について(7月6日現在)

### (1) 気象

【平均気温】6月は平年より0.8℃高かった。2半旬は平年より1.6℃低かったが、その他は平年並から高かった。7月1半旬は平年より0.6℃高かった。

【日照時間】6月は平年比94%、4半旬は40.9hr(平年比195%)と多照だったが、その他は平年並から少なかった。7月1半旬は平年比31%であった。

【降水量】6月は平年比115%、3,4半旬は0mmであったが、5,6半旬にそれぞれ93.0mm(平年比120%)、231mm(同257%)と多雨だった。

7月1半旬は平年比206%であった。

【梅雨入り】5月29日頃と平年より6日早かった。

### (2) 生育概況

移植の中心は、「夢しずく」では、6月10～11日頃となり、その他の中晩性品種(「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」等)では、6月17～25日頃であった。

いずれの品種も草丈は高く、茎数は少なく推移している。

また、大雨の影響によりスクリミングガイの食害が見られ、麦わら分解によるガスも発生している。

### 3. 普通期水稻の今後の管理について（7月6日～）

大雨や寡照条件が続いている為、中晩生品種を中心に水稻が軟弱徒長傾向で推移している。今後も局地的な大雨が予想される場合は、落水、浅水管理を徹底し、初期分けつの確保とスクリミングガイ食害、ガス害の回避を図る。

#### (1) 水管理

##### ①「夢しずく」の水管理

- ・除草剤施用後、湛水期間を過ぎた圃場は、深水管理とせず、足跡に水が溜まる程度の浅水管理を行う。
- ・移植が6月10～14日頃の圃場では、7月中旬頃から中干しの時期となる。1株あたり茎数が18本以上確保できた圃場は落水し「中干し」を実施する。中干しの目安は、ヒビが1cm程度（軽く足跡がつく程度）入る状態。

～ 中干弱め ～  
土は黒く軽くヒビが入る程度

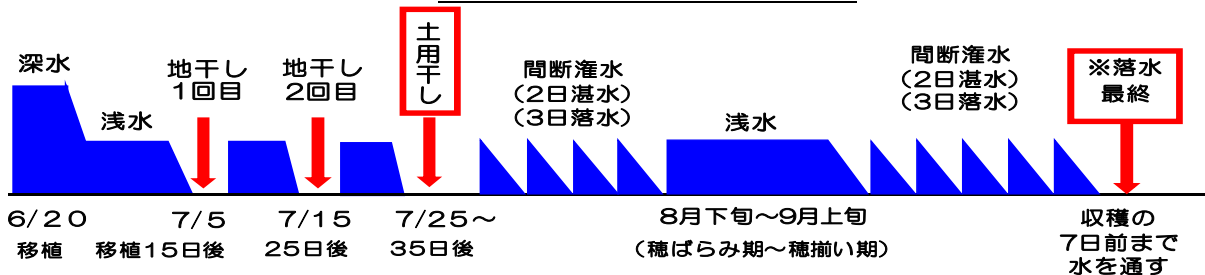


##### ②「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」の水管理

- ・移植後の降雨により、深水で推移した圃場がみられる。初期分けつの確保及びスクリミングガイの食害回避のため、浅水管理を基本に行う。

##### ③麦わら等残渣のすき込みによるガスの発生への対策

- ・今後も高温が続くと推測されるため、すき込んだ麦わら等の分解がさらに進み、ガスの発生が多くなることが考えられる。
- ・ガス害を避けるためには、落水（地干し）を半日～1日行う。



#### (2) 病虫害防除について

##### ①海外飛来性害虫

- ・7月6日現在、ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）は、梅雨の前線に伴う飛来（6/30、7/1、3、4）が県西部で確認されている。
- ・トビイロウンカの発生予測図については、梅雨明けをめぐり情報発信を行う予定である。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認してください。

佐賀県 農業技術防除センター



##### ②いもち病

- ・本田で新たな病斑の発生が認められたら防除を検討する。
- ・補植用の苗を圃場に放置すると、いもち病の温床となるので早急に撤去する。

### (3) 除草作業

- ・除草剤が散布できなかつた圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、除草剤の効果が低下したため、雑草の発生がみられる。
- ・このような圃場で、放置するとヒエや広葉（コナギ・アゼナ）が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。

表1. 残草の目立つ圃場での防除方法

使用例	除草剤名	剤型	使用時期	備考
ノビエの発生が多い圃場	クリンチャー1 粒剤	粒	移植後 7日～10日 4L (但し、収穫30日前まで)	湛水散布 (3～4日は湛水)
	クリンチャーEW	液	移植後 20日～10日 6L (但し、収穫30日前まで)	落水散布。展着剤加用する。
	ヒエクリーン1 粒剤	粒	移植後 15日～10日 4L (但し、収穫45日前まで)	湛水散布 (3～4日は湛水)
広葉雑草	バサグラン粒剤	粒	移植後 15日～55日 (但し収穫60日前まで)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落水～ごく浅く湛水散布。最低3日間（浅水処理は5日間）入落水しない。</li> <li>・処理後2日以内の降雨があると効果が低下する恐れあり。</li> <li>・高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。</li> </ul>
	バサグラン液剤	液	移植後 15日～55日 (但し収穫50日前まで)	
ノビエと広葉雑草の両方	クリンチャーバスME 液剤	液	移植後 15日～10日 5L (但し収穫50日前まで)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落水～ごく浅く湛水散布。最低3日間（浅水処理は5日間）入落水しない。</li> <li>・処理後2日以内の降雨があると効果が低下する恐れあり。</li> <li>・高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。 (展着剤加用しないこと)</li> </ul>
	ハイカット1 粒剤	粒	移植後 15日～10日 3.5L (但し、収穫60日前まで)	湛水散布 (3～4日は湛水)
	ワイドアタックSC	液	移植後 20日～10日 6L	落水～ごく浅く湛水散布。 (展着剤加用しないこと)

注1) 除草剤の再散布を行う場合は農薬の使用基準を遵守し、同一薬剤は避けて散布しましょう。

なお、再散布にあたっては最寄りのJAもしくは農業振興センターまでご相談ください。

注2) 除草剤の散布にあたっては、剤により処理時の水管理が異なりますので注意してください

注3) 薬剤は地区の暦参照（掲載品目が異なるため）

## 4. 大雨後の対策について







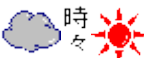
- ・浸冠水した圃場では、退水後速やかに新しい水と入れ替えたのち、いったん落水して土中に酸素を供給し、発根を促し、分けつの発生を促進する。
- ・除草剤処理直後にオーバーフローした圃場では、除草剤の再散布を検討する。処理後、2～3日経過していれば効果は期待できるが、雑草発生を見極めながら、必要に応じて中後期の除草剤で対応する。
- ・浸冠水した圃場では、稲の抵抗力が弱まるため病害虫の発生が多くなる恐れがある。圃場をよく見回り、早期発見、発生に応じた薬剤防除に努める。
- ・浸冠水で水稻が軟弱となった圃場やクリーク水が流入した圃場では、スクミリンゴカイによる食害が拡大する恐れがあるため、用排水管理を実施するとともに、薬剤防除を検討する。
- ・麦わらの吹き寄せ等で稲株を押し倒したり覆い被さっている場合は、レーキ等で取り除く。



## 5. 大豆の今後の管理について

- 1) 播種適期を迎えているが、梅雨明けしておらず、梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多い見込みである。週の後半は晴れ間もあるが雲が広がりやすい見込みである。  
安定・多収を目指すには「出芽・苗立ち」が重要であり、播種前後の天気予報には十分留意して播種を行う。

参考) 週間天気予報 (佐賀県：7月7日 11時発表)

8日(土)	9日(日)	10日(月)	11日(火)	12日(水)	13日(木)	14日(金)
						

- 2) 雑草発生が目立つ圃場では、播種前に非選択性茎葉処理剤（ラウンドアップ、プリグロックス等）の散布や、播種直後に土壌処理剤の散布を行う。その際、周囲の水稻等への飛散がない様注意する。

降雨が続き「元草除草」を実施できなかった圃場は、次のことに留意し速やかに除草剤を散布する。

非選択性茎葉処理剤の使用に当たっては耕起前日でも枯殺可能。（ラウンドアップは1日で吸収移行、散布後1時間後の降雨 OK、プリグロックスは1日程度で効果発現、散布後15分後の降雨 OK）

- 3) 荒起しは、圃場が乾くの待ち、播種前日～当日を行う。  
耕起後に降雨にあった場合は土壌が乾燥しにくく、晴天が続く場合は乾燥しやすくなる。播種後に晴天が予想される場合には、乾燥による発芽率の低下が懸念されるため、荒起こしと播種耕起の間隔を空けないようにする。
- 4) 紫斑病やその他の雑菌の防除効果が高く、腐敗防止や発芽率の向上に効果がある為、種子消毒（クルーザーMAX、キヒゲンR2フロアブルなど）を実施する。
- 5) 大豆の収量を確保するためには、播種時期にあった播種量を選択し、栽植密度を調整する。

播種期	栽植本数 (本/m <sup>2</sup> )	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月1～10日	7～8本	75×30×2	2.5～3.0
7月11～20日	10本	75×25×2	3.0～3.5
7月21～31日	13本	75×20×2	4.0以上

- 6) 播種深度は、
- ・播種後に降雨が多い予報の場合、2cmの浅めにして播種後の鎮圧は行わない。
  - ・播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧を行う。
- 7) 大豆は播種後2日間の大雨や浸水で発芽率が著しく低下する為、播種後2～3日以内に冠水するような大雨が予想される場合の播種は実施しない。
- 8) 1工程で播種する場合には、碎土率を高めるため、作業速度を遅くする。
- 9) 播種作業には、麦用の「片培土板」をロータリに装着して畦立て播種すれば、表面排水も良くなるため、湛水による出芽不良を軽減することができる。
- 10) 播種直後に土壌処理剤を散布する。難防除雑草のヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウの発生が多い圃場では、フルミオ、ラクサー乳剤の除草効果が高い。

# 令和5年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

三神農業振興センター

